

作品の内容について（一部）

※ 備考に記載のとおり、右記から視聴可能なものもございます。

<https://www.youtube.com/user/MOJchannel>

※ MOJchannel
(法務省の公式YouTubeチャンネル)

	タイトル	年・時間	内容	備考
女性	デートDVって何？ ～対等な関係を築くために～	(2013年、ドラマ10分 解説11分)	<内容：女性の人権> DVとは、ドメスティック・バイオレンス（Domestic Violence）、日本語では「家庭内暴力」と訳されますが、一般的には「配偶者や恋人などの親密な関係にある者（又は、あった者）から振るわれる暴力」を指しています。そして、DVの中で、特に交際の相手から受ける様々な暴力を「デートDV」と呼んでいます。 この作品には、「デートDV」に関する3つの事例紹介の後に、人権擁護委員による事例解説が入っています。交際相手と対等な関係を築くためにはどうしたらよい？考えてもらうことを目的としています。	
こども	あなたは大丈夫？考えよう！児童虐待	(2024年、32分)	<内容：こどもの人権（児童虐待）> ・こどもパート、大人パート 事例 心理的虐待、身体的虐待、ネグレクト、性的虐待 ・大人パートのみ ポイント1 児童虐待の判断について ポイント2 民法一部改正についての説明	
こども	勇気のお守り／自分の胸に手を当てて	(2012年、アニメ計30分（各15分）)	<内容：こどもの人権（いじめ）> こどもたちをめぐる人権問題には、いじめや児童虐待など様々なものがあります。「勇気のお守り」は、転校生へのいじめをテーマとしており、「自分の胸に手を当てて」は、学校裏サイトへの書き込みやメールなどを悪用したネットいじめに焦点をあてた作品になっています。	本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。
こども	本当の友達	(2007年、50分)	<内容：こどもの人権（いじめ）> 群馬県前橋市内の小学生が演技、脚本、演出といったほとんどの過程を自分たちが主体となり、自分たちの目線でいじめの問題を考えながらつくった、いじめをなくすための自主制作映画です。	
高齢者	ここから歩き始める ～認知症と共に生きる～	(2015年、34分)	<内容：高齢者の人権、認知症> 日本における平均寿命の大幅な伸びや、少子化などを背景として、社会の高齢化が急速に進んでいる。それに伴い、認知症高齢者も大きな社会問題になっている。 高齢者を家族や地域でどのように支えていくか、また、高齢者自身の意欲や能力をどのように生かしていくかを考えることは、これからの私たちの大きな課題である。 この作品は、「認知症と共に生きる」をテーマに、高齢者問題を人の幸せと尊厳を守るという人権の視点から捉える。認知症の親を持つ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤ときずなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考える。	企画：公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

高齢者	夢のつづき	(2008年、アニメ40分)	<内容：高齢者の人権> この作品は、家族の中で疎外感を抱く高齢者、認知症を患う高齢者、その介護に疲れ果てた家族や無気力な毎日を送る若者らが、世代の異なる者とのふれあいや高齢者を支援するサービスの活用などで、家族の絆を深め、生きがいを感じられる生活を取り戻していく様子を描いています。	企画：北九州市、北九州市教育委員会
障害者	風の匂い	(2016年、34分)	<内容：障害者の人権、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律> 平成28(2016)年4月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。この法律では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。障害のある人は社会の中にあるバリアによって行動の制限や不当な扱いを受けるなど、生活しづらい状況におかれることがあります。このバリアは物理的な問題だけではなく、障害のある人への差別意識や知識不足からも生まれています。私たち一人ひとりが意識を変えて、「バリア＝壁」をなくしていかなければなりません。 この作品は、スーパーマーケットで働く青年、歩と正人が主人公です。歩には知的障害がありますが、こどもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健常者と障害者という壁。その壁を作っているのは誰なのか。 二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある『合理的配慮』についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマ教材です。	企画：兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会、企画協力：兵庫県教育委員会、制作：東映株式会社
障害者	聲の形（こえのかたち）	(2015年、30分)	<内容：障害者の人権、いじめ> 道徳の授業の教科化に伴い、如何にしてこども達を「心の豊かな人間」に育てるか様々な議論がなされております。原作の「聲の形（こえのかたち）」（講談社）は、現代の子どものリアルな表情を描きつつ、「いじめ」や「障がい者との共生」などの難しいテーマを読者が自然に考えることのできる優れた物語であり、人権意識を常に高く持っていないと、周囲の人を傷つける可能性があることを教えてくれます。 本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマを付加したドラマ形式の学習教材です。「いじめ」や「障がい」に対する意識と知識を高め、学校や家庭内で話し合うきっかけとしてお役立てください。	監修：一般社団法人全日本ろうあ連盟企画・制作：東映株式会社教育映像部
部落差別（同和問題）	人権アーカイブ・シリーズ ～同和問題～	(2015年、証言・解説及びドラマ80分)	<内容：部落差別（同和問題）> この教材は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等のさまざまな団体における人権教育・啓発担当者が身に付けておくべき部落差別（同和問題）に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を分かりやすく簡潔にまとめた「同和問題～過去からの証言、未来への提言～」(61分)と、一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる「同和問題未来に向けて」(19分)の2つの映像作品から成り立っています。	本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。

部落差別 (同和問題)	あなたに伝えたいこと	(2015年、ドラマ36分)	<内容:インターネット時代における部落差別(同和問題)> 部落差別(同和問題)の解決を図るため、30年以上にわたって地域改善対策が行われてきました。その結果、生活環境などハードの面の改善は進みましたが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残されています。 このドラマは、主人公の結婚話を中心に、周囲の人との関わりを通して、ネット上の情報だけでなく、実際に人とふれあう中でお互いを正しく知り合うことが、部落差別(同和問題)やすべての差別をなくしていくために重要であることを描いています。	企画:公益財団法人 兵庫県人権啓発協会
部落差別 (同和問題)	同和問題と人権 ～あなたはどうか考えますか～	(2009年、解説28分)	<内容:部落差別(同和問題)> 部落差別(同和問題)とは、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分的差別により、日本国民の一部の人々が長い間、経済的・社会的・文化的に低い状態に置かれることを強いられ、今なお、日常生活の上で様々な差別を受けるなどの日本固有の人権問題です。 この問題の解決を図るため、国、地方公共団体は様々な対策を講じてきましたが、インターネットを悪用した差別的書き込みや結婚・就職問題を中心とする差別事案は、いまだに後を絶ちません。 部落差別(同和問題)を正しく理解し、問題を解決するためにはどうすればよいのかを考えるための作品です。	
外国人	外国人と人権 ～違いを認め、共に生きる～	(2016年、33分)	<内容:外国人と人権> このDVDは、外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にする人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるのかを考えるものです。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているのかを学びます。	日本語字幕/英語字幕/副音声入り 本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。
感染症	人権アーカイブ・シリーズ ～ハンセン病～	(2015年、証言・解説及びドラマ76分)	<内容:ハンセン病> 1 ハンセン病問題 ～過去からの証言、未来への提言(人権教育・啓発担当者向け・証言及び解説・56分) ハンセン病問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべきハンセン病問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめた啓発映像です。 2 家族で考えるハンセン病(一般向け・ドラマ・20分) ハンセン病問題に焦点を当てた啓発映像です。ドラマを中心に、関係者の証言や解説等を交えて分かりやすく簡潔にまとめています。	<平成27年度 法務省委託 人権啓発教材> 本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。

性的マイノリティ	あなたがあなたらしく生きるために ～性的マイノリティと人権～	(2014年、30分)	<内容：性的マイノリティの人権> 性・セクシュアリティはとても多様です。しかし、それをしっかり理解している人は多くなく、性的マイノリティの方々の多くが生きづらさを感じています。誰もがありのままで受け入れられ、自分らしく生きることができる社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。 この教材は、性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めることを目的としています。	<監修>日高康晴（宝塚大学看護学部教授） <ナビゲーター>草野満代（アナウンサー） 本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。
働く人	今企業に求められる「ビジネスと人権」への対応	(2024年、ロングバージョン35分、ショートバージョン13分)	<内容：ビジネスと人権> 今、企業は自社事業に関わる全ての従業員はもちろん、ステークホルダーと呼ばれる取引先の従業員や顧客、消費者、地域住民など、事業に関わる全ての人の人権を尊重することが求められています。 本DVDでは、法務省人権擁護局と公益財団法人人権教育啓発推進センターが制作した「ビジネスと人権に関する調査研究」報告書に基づき、企業が「ビジネスと人権」に関する取組を進めるに当たり、参考となる情報をドラマやCG、ナビゲーターによる解説などで分かりやすく紹介しています。	
働く人	ハラスメントを生まないコミュニケーション ～グレイゾーン事例から考える～	(2018年、25分)	<内容：職場における人権> 一見コミュニケーションが良好に見える職場にも、ハラスメントの落とし穴はひそんでいます。もしかしたら、普段の何げない言葉が、知らぬ間にハラスメントになっているかも知れません。ハラスメントを生まないために、どのようなことを意識すれば良いのでしょうか。 様々な事例をもとに、それぞれの立場の考え方や、気付きのポイントを示し、職場でのコミュニケーションのあり方を考えていきます。 （パワハラ3事例、セクハラ2事例、マタハラ1事例）	
働く人	コール&レスポンスーハラスメントー	(2017年、24分)	<内容：職場における人権> 「コール&レスポンス」とは、ジャズのセッションでプレーヤ同士が呼応し合うこと、また、コンサート会場でプレーヤーと観客が呼応することを言います。ハラスメントを防ぐことは人権尊重の上で重要な課題です。しかし、相手の心を知ることはできません。ハラスメントを防ぐためには、十分なコミュニケーションをとると同時に、相手が言いにくい立場にいる場合は、相手の心を十分に推し量り、思いを聞いてみるのが大切です。また、ハラスメントを受けていると感じたら、たとえ小さくても声をあげ、それを相手に伝えることも大切です。この作品は、職場におけるコミュニケーションの重要性を、「コール&レスポンス」というキーワードに仮託して考えていきます。	企画・制作：東映株式会社 教育映像部
働く人	企業活動に人権的視点を ～CSRで会社が変わる・社会が変わる～	(2015年、103分)	<内容：企業の社会的責任と人権> 企業活動にCSRや人権的視点を取り入れている組織の経営者や関係の皆様へのインタビュー、実際の取組の様子、従業員や地域の人々の声などを紹介するドキュメンタリーです。また、各事例の取組のポイントなどの専門家による解説も収録しています。	本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。

働く人	新・人権入門	(2014年、ドラマ25分)	<内容：職場における人権> 現在、様々な職場において、働く人の年代や性別、国籍の多様化が進み、また、メールやSNSの発達などコミュニケーション手段も変化しています。このビデオは、様々な視点で人権課題への認識を深めてもらうことを目的とし、企業の人事担当者から取材した、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントといった、実際の出来事を16のショートドラマとして構成したパートと、それを演じた俳優が振り返るパートの2部構成になっています。	
働く人	あなたの職場は大丈夫？	(2011年、ドラマ46分)	<内容：職場の人権（セクハラ、パワハラ）、えせ同和行為> 「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」、「パワー・ハラスメント（パワハラ）」や「えせ同和行為」（部落差別（同和問題）を口実に企業等に不当な利益や義務のないことを要求する行為）は見過ごすことのできない人権問題です。 3つのドラマを通して、一人ひとりが人権問題に向き合い、人権について考えていくことを目的とした作品です。	本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。
働く人	職場の人権 ～相手のきもちを考える～	(2008年、ドラマ27分)	<内容：職場の人権> 社員相談室・新人相談員が、職場で起こる様々なトラブル（パワハラ・セクハラなど）や悩みに遭遇することにより、“相手のきもち”を考えることはどういうことなのかを理解していく過程をドラマ仕立てで描いた作品です。	
様々な人権課題	Voice!!! 人権の教室	(2017年、38分)	<内容：オリンピック・パラリンピックと人権、北朝鮮による拉致問題、こどもの人権（いじめ問題）> ようこそ「人権の教室」へ。中学生・高校生合わせた3人が、招待状を見ながら休日の教室に集まってきます。 ただこどもたちは内心、「人権」について今ひとつピンときていない様子。さて、どんな授業が始まるのでしょうか…	
様々な人権課題	すべての人々の幸せを願って ～国際的視点から考える人権～	(2015年、35分)	<内容：人権に関する国際条約> 世界には、性別や人種、皮膚の色の異なる人々、大人や子ども、障害のある人など、一人ひとり違いを持ったたくさんの人たちが暮らしています。すべての人々の人権が尊重され、相互に共存し得る、平和で豊かな社会を実現するためには、私たち一人ひとりが人権に対する理解を深め、相手の違いを認めつつ、同じ一人の人間として相互に尊重し合うことが必要です。 ・国連の人権への取り組み(世界人権宣言と国際人権諸条約) 5分 ・女性の人権(女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約) 9分 ・こどもの人権(児童の権利に関する条約) 7分 ・障害のある人の人権(障害者の権利に関する条約) 9分 ・外国人の人権(あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約) 6分	(監修・解説 同志社大学法学部 教授 坂元 茂樹)

様々な人権課題	わっかカフェへようこそ ～ココロまじわるヨリドコロ～	(2015年、35分)	<内容：インターネット、高齢者、外国人の人権> あなたには「心のよりどころ」がありますか？忙しい日常に追われて誰かと「心を交流する」ことをおろそかにしていませんか？町の路地にたたずむこの小さなカフェにはいろんな人が訪れ、駿と桜が、出迎えます。 ここは、ココロまじわるヨリドコロ ようこそわっかカフェへ ・三色団子の向こう側（インターネットによる人権侵害、12分） ・世代をつなぐ柏餅（高齢者の人権、8分） ・コンペイトウの来た道（外国人の人権、12分）	企画：東京都教育委員会、制作：東映株式会社
様々な人権課題	imagination(イマジネーション) ～想う つながる 一歩ふみだす～	(2013年、34分)	・こどもの人権-いじめ問題-いじめをなくすのはアナタ ・部落差別（同和問題）-『関わらないのが一番』それ本当？ ・障害者の人権-発達障害-見えにくいから知ってほしい、発達障害のこと	企画：東京都教育委員会、制作：東映株式会社 教育映像部
様々な人権課題	家庭の中の人権 生まれ来る子へ	(2013年、ドラマ25分)	<内容：家庭の中の人権> このドラマでは、「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話を通して、私たちの身の回りにある人権問題をクローズアップし、気づくこと、そして、行動することの大切さを描いています。 1. おなかに赤ちゃんがいます、2. イクメンは変ですか。3. よかれと思って、 4. 親の介護をするのは誰、5. 愛情とは支配すること？、6. 生まれ来る子へ	
様々な人権課題	虐待防止シリーズ	(2013年、ドラマ及び解説46分)	<内容：こども、高齢者、女性の人権> このビデオでは、パート1で「児童虐待」、パート2で「高齢者虐待」、パート3で「ドメスティック・バイオレンス（DV）」を取り上げ、こどもや高齢者、配偶者に対する虐待の事例をドラマで描くとともに、問題点や第三者としての関わり方について専門家のコメントを紹介します。 ドラマを通して、虐待を他人事ではなく、身近な問題として捉え、虐待の防止・解決について考えていくことを目的にしています。	各パートは約15分です。
様々な人権課題	ヒーロー	(2013年、ドラマ34分)	<内容：地域社会における人権> 近年、社会から孤立している人が増えてきており、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながり、いわゆる血縁や地縁、社縁の希薄化による「無縁社会」と呼ばれる社会状況です。 このドラマは、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらうことを目的としています。	企画：公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

様々な人権課題	ほんとの空	(2012年、ドラマ36分)	<内容：地域社会における人権> 高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、部落差別（同和問題）や原発事故に伴う風評被害の問題。 誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解しています。その一方で、私たちは自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するけれど、それ以外のことには他人事のように感じたりします。また、私たちは、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかずに、他者を排除したり、傷つけたりしがちです。 このドラマは、集合住宅に住む3人家族が、原発事故に伴い避難してきた一家や他国から引っ越してきた隣人との交流を通して、自らの誤解や偏見に気づき、他者への理解を深めていく過程を描いています。	企画：公益財団法人 兵庫県人権啓発協会
様々な人権課題	クリームパン	(2010年、ドラマ36分)	<内容：地域社会における人権、こどもの人権> 派遣切りにあい失業中の青年が、様々な人との交流を通して「いのちのきずな」に気づいていくドラマです。 こどもへの虐待や若者の自殺など社会問題になっている事件を通して、社会や地域の中で孤立している人々に対する正しい理解を訴えるとともに、今一度、「いのち」について自分の問題として考えてもらうことを目的とした作品です。	企画：公益財団法人 兵庫県人権啓発協会
様々な人権課題	日常の人権1 一気づきから行動へー	(2009年、ドラマ23分)	<内容：女性の人権、こどもの人権、高齢者の人権> 日常生活の中に潜むさまざまな人権問題を取り上げた作品です。ドラマで人々の心にある偏見を、そしてドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝える作品です。	
様々な人権課題	日常の人権2 一気づきから行動へー	(2009年、ドラマ23分)	<内容：外国人の人権、障害者の人権、部落差別（同和問題）、インターネットによる人権侵害> 日常生活の中に潜むさまざまな人権問題を取り上げた作品です。ドラマで人々の心にある偏見を、そしてドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝える作品です。	
様々な人権課題	こころに咲く花	(2008年、ドラマ35分)	<内容：こどもの人権、職場の人権> 学校や地域でのいじめ、職場でのパワハラ、セクハラが人権侵害として大きな社会問題になっています。 いじめ構造の中で多数を占める傍観者、観衆たちが一歩を踏み出して、勇気をもって声を発すれば、必ずいじめの解決につながることを訴える作品です。	企画：公益財団法人 兵庫県人権啓発協会
様々な人権課題	親愛なる、あなたへ	(2008年、ドラマ37分)	<内容：地域社会における人権> 都市化や核家族化が進行する中で、地域社会における人々の結びつきが弱まっています。近隣同士であっても互いに無関心・無理解でいることにより、様々な人権問題が起きています。 まず身近な人や出来事に関心をもつことが人権尊重の第一歩であることに気づき、地域を見つめ直す契機となる作品です。	企画：公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

全国中学生人権作文コンテスト入賞作品より	わたしたちが伝えたい、大切なこと	(2016年、31分)	ーアニメで見る全国中学生人権作文コンテスト入賞作品ー ・「差別のない社会へ」(8分) 原作：平成22年度文部科学大臣奨励賞受賞作品 中学生である主人公が、自らの経験を通して差別される側の心の痛みを知り、父の言葉を思い起こして差別に立ち向かう勇気を得る経緯を描きます。 ・「手伝えることはありますか」(7分) 原作：平成26年度法務事務次官賞受賞作品 事故で右手を失った父に対して「何でもやってあげよう」と考えた主人公ですが、実際の父との暮らしの中でやがて大事なことに気付きます。 ・「共に生きるということ」(7分) 原作：平成25年度法務事務次官賞受賞作品 主人公が、人権学習の講師として来た視覚障害のある小林さんの言葉を聞くことで、自分が今まで持っていた障害のある人＝弱者という考え方が変わっていく過程を描きます。 ・審査委員長からのメッセージ(8分) 全国中学生人権作文コンテスト中央大会審査員長(作家) 落合恵子	企画：法務省人権擁護局、公益財団法人人権教育啓発推進センター、制作：毎日映画社
全国中学生人権作文コンテスト入賞作品より	わたしたちの声 3人の物語	(2013年、ドラマ45分)	<内容：「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品をもとにしたドラマ> このビデオは「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品を原案とし、作者の中学生が人権について考えを深めていく過程をドラマで描いています。このドラマを見ることで、多くの方に、身の回りの人権へ目を向けていただきたいと思います。 1. 「いじめをなくすために、今」作者の中学生が、自らの重い体験を通して、命の大切さを知り、いじめを傍観することをやめた経験を振り返ります。 2. 「温かさを分け合って」作者の中学生が、東日本大震災を機に人の温かさに触れる一方で、偏見や心ない言動に接し、人権について考えを深めていく経験をつづっています。 3. 「リスペクトアザース」作者の中学生が、アメリカと日本の対人関係を比較しながら、人権を尊重し合うために何が大切かを考えます。(各15分)	本DVDに収録されている映像は動画共有サイトYouTubeの「法務省チャンネル」及び「人権チャンネル」で視聴可能です。